



みんなの質問

～さあミライの話をしよう～



川上：札幌商工会議所のSDGs経営表彰で最優秀賞受賞にかけた思いを教えてください。

神林：サステナブル経営が浸透してきたのはここ数年です、何故かと言うと地球が悲鳴を上げているからです。

サステナブルというのは、「サステインが継続」、「エイブルが可能な」という意味で継続可能な社会を作ろうと言う事です。

1970年代に先進国が経済発展するために様々な開発を行いました。結果、地球が悲鳴を上げ、貧富の差が広がり、明るい将来が描けなくなりました。誰もおいていかず、みんなで成長していこうと言う趣旨でSDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)が制定されました。

札幌丸井三越も以前から地域社会と共に発展していくDNAがありました。今回SDGs表彰を受けたのも特別な取り組みをしたわけではありません。先輩たちが取り組んでいた地域との関り、自然との共生が評価され最優秀賞を受賞しました。

川上：サステナブルという言葉には、環境に配慮したという印象を持っていました。

人材育成を含め従業員に対する取り組みが評価の対象なのは驚きです。

神林：「誰もおいていかない」がサステナブルの大きなテーマです。

先進国が開発途上国をおいていかないのと同じように、会社でも全員で同じレベルまで行くことを目指します。

誰かだけが出来るではなく、人種性別関係なく地球上全員で取り組んでいる事と同じスタンスで、会社でも皆で取り組もうという内容です。

札幌市内の企業で、札幌丸井三越の育児・介護勤務の充実はトップクラスの内容であり、我々が誇っていいと思っています。

表彰されたから終わりではなく、今後も続けるべき経営スタイルと考えています。

川上：我々の会社にも誇れることが増えました



川上：サステナブルには期限があります。その先はどうなりますか

神林：SDGsは2030年にゴールが設定されています。そのあとにやらなければならないと言われている

のが『**ウェルビーイング**』です。**ウェルビーイング**は自分を見つめ直しましようと言う事です。

ウェルは「よりよく」ビーイングは「あるがまま」です。反対の言葉にウェルドゥーイングがあってしっかり仕事をす
る運動をするなど何かをしたことによって褒められたり褒められなかったりすることです。

ウェルビーイングの1日はワクワクして目を覚まし、1日を過ごし、満足して寝るこれが1週間・1カ月・
1年繰り返されるとウェルビーイングの生活になると言われています。

ウェルビーイングの概念を会社に持ち込みたいと思っています。

お客様は悩みを抱えて来店されることが多いです。店頭に来ていただき、接客をすると楽しい気持ちにな
り満足して帰っていただく。来店前、来店時にウェルビーイングな体験を通して満足してもらおう会社にした
いと思っています。

一番大事なことは笑顔です。満足した1日を過ごすには相手に認められることが必要です。

何をすればいいかという、通路を歩いているお客様をしっかりと見て、笑顔で「いらっしゃいませ」と言うだ
けです。簡単なことを毎回実行するのは難しいですが、効果は絶大にあります。素敵な笑顔で挨拶する
事が出来ればお客様はいい気分になります。

笑顔が少ないところかお客様と目も合わず挨拶もないそんなお店ではワクワクしないです。

ウェルビーイングな会社を目指すには、自分たち自身がお客様に笑顔で接することで自分たちも気持ち
が良くなる好循環を作り出します。お客様のためにも自分のためにも、笑顔で挨拶を続けると**ウェルビー
イングな会社**になります。札幌丸井三越に行くといい気分になる、悩みが晴れ晴れとする百貨店にしたい
と思います。笑顔を忘れないように、みなさんが笑顔になるために必要な事は経営的に取り組んでいき
ます。残業時間、応援時間を減らすなどみなさんに負担がかかっている業務を、少しでも笑顔になれる
ように改善していきたいと思っています

川上：お客様を精神的、身体的にも良い状態にする為には、まず従業員からと言う事ですね。

お客様と従業員が関わり合い地域社会の貢献にもつながりますね

神林：通勤電車でも、降りるのを先に譲る、目が合ったら微笑み返しなどしています。

笑顔を街に広げていきたいと思っています。調子が悪いとできない時もあるので従業員の健康や仕事の
悩みはひとつでも取り除いていきたいと考えています。

『本編』『補足』
動画はこちら



感想・今後取り上げて欲しい
テーマなどアンケートはこちら

